



柳菴雜筆

二

15
1489
2



門 5
號 1489
卷 2



柳菴雜筆卷之二目錄

歩士しゅうし若黨じやくとう乃衣服いふく

龍仗りゆうぼう

石水院いすゐゐん乃柱はしら

齋藤實盛さいとう じつせい乃甲冑こうぐ

本曾義仲ほんそう ぎちゆう條狀じょうじょう

錦直垂にしん ちかたれ

布鎧直垂ふよろい ちかたれ裁法さいはふ 布二丈六尺四丁一人の

驛路鈴えきろ ず

緣氏へりうぢを垢除あかとり小用人せうにん

字音しおんみゝ通用つうよう以もつる物もの名な

鷹掌たうしょう乃流々なうりゅうりゅう

盲人官途金割もうらん かんどう きんわり

商人あきひと乃屋号やごう

延喜聖代えんぎ せいだい

町人ちやうじん帶刀たいとう



柳菴雜筆卷之二目錄終

柳菴雜筆卷之二

栗原信充 著

○寛永十二年十二月乃武家諸法度^と歩士^{うち}若黨^{じやくとう}乃衣類^{いらい}
紗綾^{さあや}縮緬^{ちぢめん}半島^{はんこま}羽^は二重^{ふたへ}縮緬^{ちぢめん}布^{ぬい}木綿^{もめん}乃外^{ほか}停止^{ていし}乃事^{こと}と見^み
る其次^{そのつぎ}乃條^{てう}乃弓^{やみ}鉄炮^{てつぱう}乃者^{もの}縮緬^{ちぢめん}布^{ぬい}木綿^{もめん}乃外^{ほか}是^{こゝ}を著^きへ
から以^{もつ}と載^のら鉄炮^{てつぱう}る時^{とき}を歩士^{うち}若黨^{じやくとう}と弓^{やみ}鉄炮^{てつぱう}乃者^{もの}
乃差^{ちがひ}由^{よし}自然^{しぜん}明^{あき}らうか里^{さと}爰^{こゝ}歩士^{うち}と云^いわ小田原^{おだわら}北條^{きたじょう}
家^け入^いる身^み脇^{わき}尻^{しり}と云^いわ武田^{ぶたに}家^け入^いる廿^に人^{にん}武者^{むしゃ}と云^いわ一幅^{いふく}之^の
尺^{あし}苗^な乃吹貫^{ふきぬき}腰^{こし}差^ささ一^{ひと}弓^{やみ}鉄炮^{てつぱう}乃足^{あし}輕^{かろ}く革^{かわ}具^ぐ足^{あし}了^し筋^{すぢ}鉄^{てつ}
乃胃^い向^{むか}る軟^{やわ}條^{じょう}乃差^さ物^{もの}を以^{もつ}中^{ちゆう}甲^{かう}陽^{やう}軍^{ぐん}鑑^{かん}末^{まつ}書^{しよ}入^い見^みえ
と同^{おな}くか糸^{いと}通^{とほ}る又^{また}同書^{どうしよ}小^こ身^み衆^{しゆう}乃若黨^{じやくとう}紋^{もん}入^い羽織^{はおり}
と

乃府入一尺八寸許の練鐘持（主乃幕乃終付たあ馬取）
 小者又々墨入る書あり
 小者中間草履為夫荒子と次第志の進は若黨ハ小身
 衆乃郎等を云と知へ（本平記唐時演令戰の衆乃海）
 熊野落の衆ハ玉木成司（又ハ十騎一備乃條ハ士大）
 將一人歩士若黨卅人小者中間合又十人上馬三足丈
 馬又足夫廿人とあり然也ハ小身衆乃郎等乃之りも
 あら以侍大將乃郎等ハ又歩士若黨と称せハあり其
 祿を考ふハ了是輕ハ二貫三貫（甲乃乃定ハ一貫文）
 文ハ十二石形里今乃歩士若黨ハ六貫七貫八貫（ハ今）
 乃ハ石ハ斗ハ六十俵七貫ハ廿八石ハ斗ハ七十俵
 八貫ハ廿二石ハ斗ハ八十俵ハ當也里小田原の法ハ
 推ハ知と云里ハ限ハる紗綾綿細綿平島羽二重

乃衣服を服し得王金く買入ハる財不足ハるハ
 妻子贅蠱縻ハる是を織費を補ハらん但多門院日記
 天文十三年九月二日乃糸了越後布一段又百文同十
 五年八月晦日乃糸ハ細一段九百文永祿八年九月八
 日乃糸ハ緩乃小袖一貫二百文ハあり其次了米一石
 カル代ハ百廿七文銀一枚代ハ石ハ斗ハ有ハ通考也
 也及越後布一段米六斗ハ合又勺と代ハ今量ハる
 又斗ハ升ハ合七勺ハ今金ハる三十又又今ハ量
 一石乃價ハ六十ハ當ハ細一段九百文ハ米一石ハ升ハ
 合余乃價ハ里今量ハる一石ハ升ハ合余ハ准ハ今金
 六十三名二合又釐ハ里越後布ハ細ハ古今格別乃相

違かきと知へ

○簋簋内傳ふ柱之入龍伏乃次第乃事

春 頭西ニ 腹南一 足東ニ 背北ニ

夏 頭東ニ 腹北一 足西ニ 背南ニ

秋 頭南ニ 腹東一 足北ニ 背西ニ

冬 頭北ニ 腹西一 足南ニ 背東ニ

右必心得面一云々とあり下ふ吉凶を注せ教ふ信難

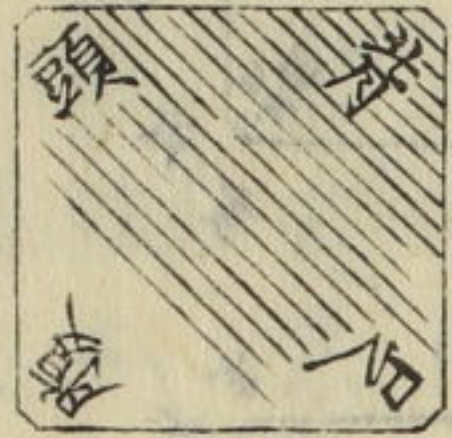
多けは強了證發せんと申思ふ事り分了山城國葛

野郡乃真言教寺ふ徳治二年乃上梁文ある堂乃修理

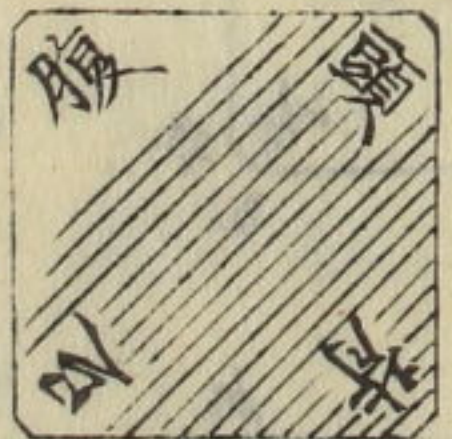
まところ屋を發せ見えは柱とふ頭又ふ腹足背乃字を

題せし件乃龍伏乃義ふや有んと知る也ハ執事の僧を

徳治二年營造虚空藏堂柱題字



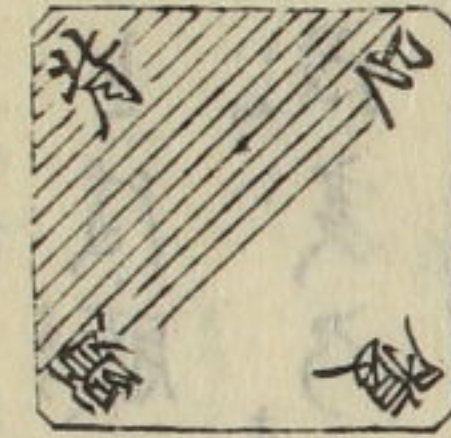
未申乃隅の柱



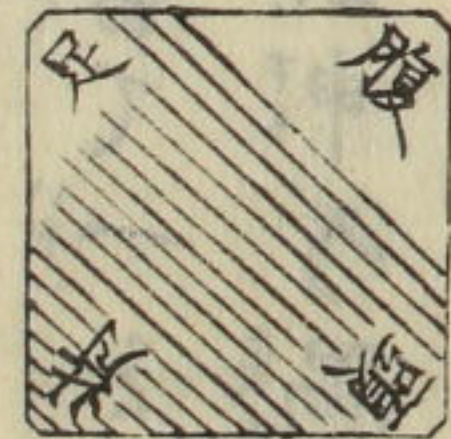
戌亥乃隅の柱

此並の柱
皆この字
あり

此並乃柱
同一字形
あり



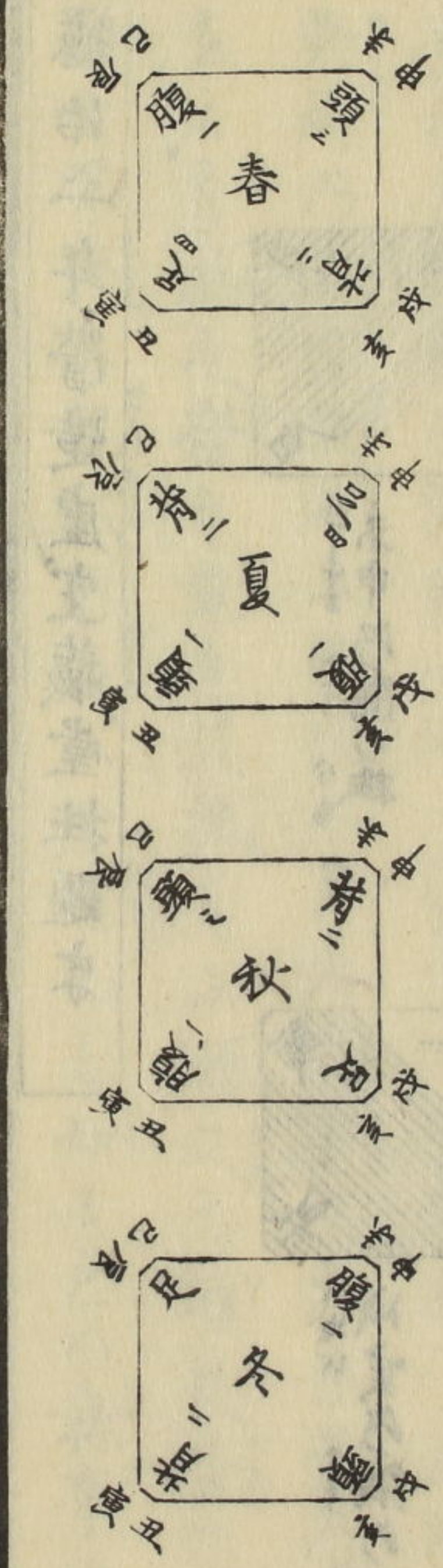
辰巳乃隅の柱



丑寅乃隅の柱

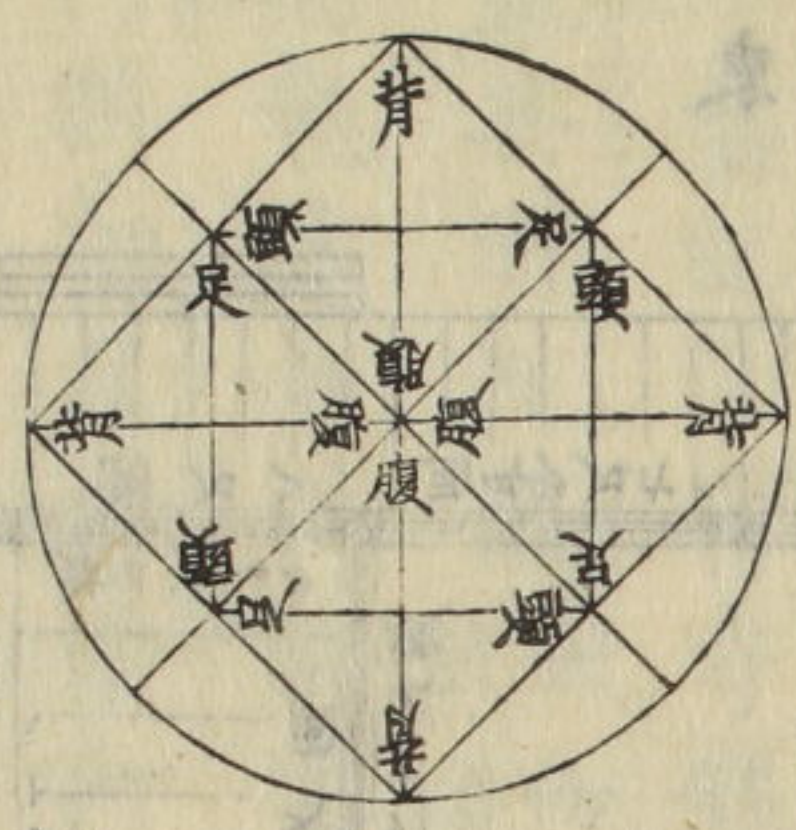
諸らハ柱乃並乃やふ寫し取し見えハ右乃如し柱乃

標を審了校せし皮付の方を外ふか。楠を内へか。
 たり依る簾簾乃鈔を考ふ。秋を春とへ成亥乃隅か。
 腹南一とは腹を辰己乃隅了當て一と以る也。然も也。
 ハ背ハ戌亥乃隅ふく二頭ハ未申乃隅ふく三是也。丑
 寅乃隅ふく四とあせり。夏といハ辰己乃隅か。腹北一
 とハ腹を戌亥の隅了當く一と以餘乃二方推く。知へ
 志と見也。
 此柱乃圖と徳治乃柱乃題字と校定をせハ
 爰ハ春と云々冬と有る春あるへ



寅を丑
 寅を丑
 寅を丑
 寅を丑

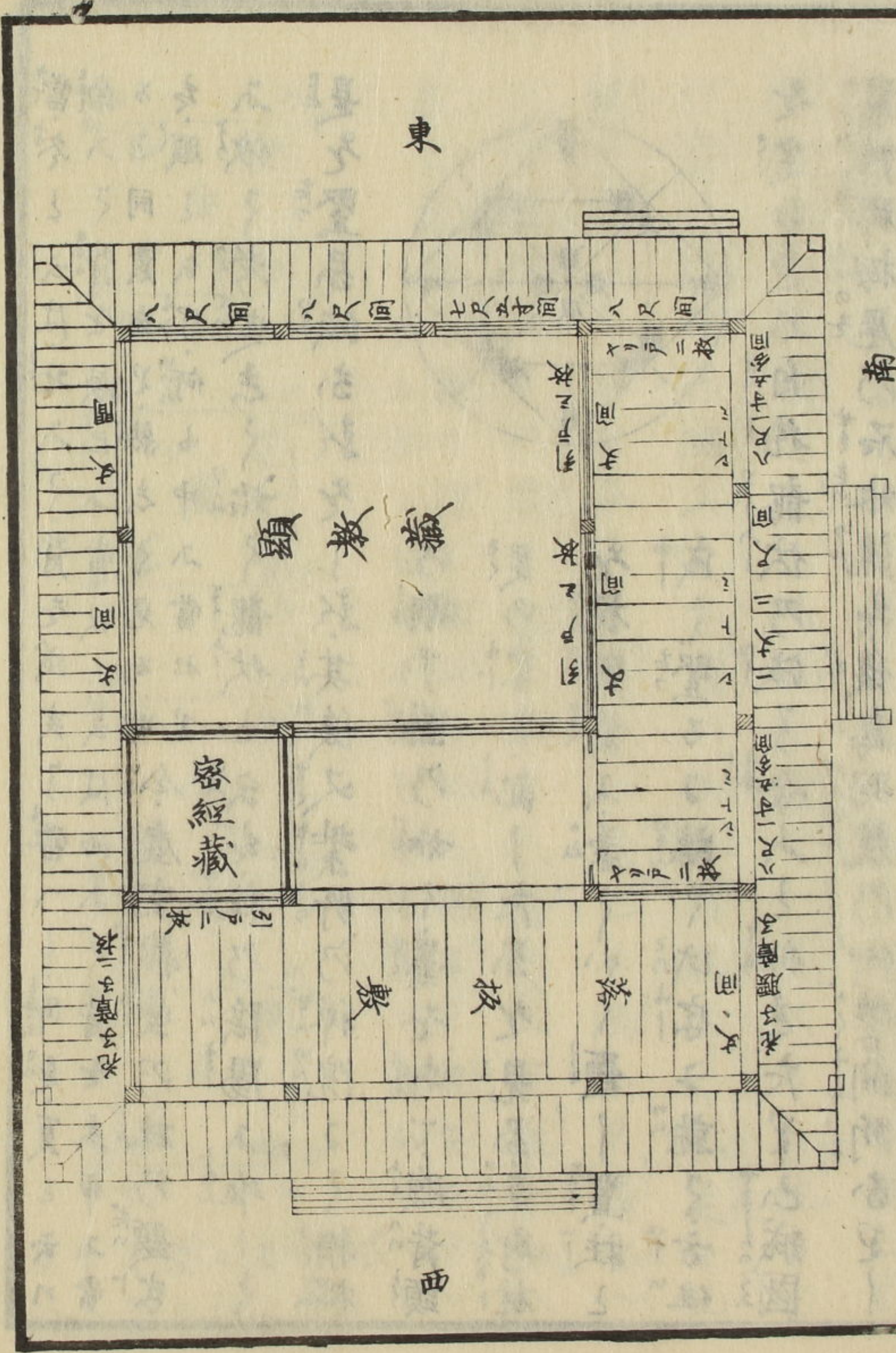
當冬と云ハ北入く背を戌亥了當へ。時是夏と云ハ
 南入く背を辰己了當秋と云ハ西入く背を未申了當
 冬と同意か。然も中ハ當れり。今虚空藏堂乃柱乃題字
 依る考定も始く龍伏と云々柱乃陰陽ふ准く
 是を聖法新を了其後又紫野乃禪院子く搦拙



乃楠了圖乃如く墨を打て腹背頭
 是の字を記したるを見ふ是即材
 を挽割前ふ兼くやく題一置柱と
 成り。堅る子臨く。試字了就く方位
 を定む也。ハ自龍伏乃法了令ふと知也。たりハ城國
 葛野郡梅尾乃石水院。後鳥羽院乃御學問所あり。
 を承久大亂乃後賀茂神主能久賀茂社乃後女餘町ふ

山城國葛野郡梅尾石水院指圖

柱乃標處空藏堂と同



建立せしを貞應二年乃秋梅尾小後一室一を里今更保
 甲辰了至之六百廿二年小及ふと云と小草創乃舊小
 古色蒼然大里柱乃位置龍伏乃法小合以川也ハ斯
 乃如く若干乃年を經述と小頼壞了至らるる院内
 の舊記了當寺鎮守以下修造奉行事被付入江坊早
 就其所々鑑開伽井坊被預置分可被執渡彼坊之由被仰出也
 仍執達如件永享十十二月廿六日貞親判私云伊勢守為
 行判梅尾寺僧御中と云文一通あり又棟札了當社頭
 御修理事自公方上舊以下被泐決了於事始者永享
 十年十二月廿六日也公方奉行四人登山也同十一
 年正月十六日より造營也毎日奉行一人宛登山於寺

家事者真譽被仰付了十二月廿六日藏主職事真譽
 為公方彼御奉書成下了面目至也番匠火工家園檜
 皮火工之郎を即とあるハ永享ノ普廣院殿義教乃仰
 小依之上菅修理ありと知る此後永正天皇寛永
 是乃次之鹿苑寺乃金閣究竟頃之應永仁年四月十六
 日柱立何里川る中本寺の古牒小見えく早長曆を以
 推小十六日戌戌小安家青標紙柱立告日と何
 里此柱黒漆小く標分明から孫と小第二重潮青洞乃
 柱第二重法水院乃柱を見せハ共小龍伏乃法依
 材乃陰陽を別也く金く水院と同一應永仁年上
 里今年乙巳百四十八年不及と云共儼然大なる乃

本匠乃道を盡せく故か不庵然乃了迎々世乃修
 造乃材乃陰陽を論とかく但其標乃良否を擇ふ去ハ
 材乃向背強弱均からさ也ハ風雨霜雪之濕里烟嵐露
 不侵さあく小至く柱顔様朽之く小勝る能く本匠乃
 道了明くか不人絶た也ハ小や
 ○加賀國能美郡小松乃町多太神社八幡宮乃寶物小
 齋藤別當實盛乃甲冑并小錦乃直垂義仲乃表指乃矢
 ありて同元禄十年國花依ハ八幡宮大宮司古曾部大
 井守乃記せ縁起を見小實盛討死乃後義仲卿幼雅
 乃時京都小實盛の養育小煩小恩切を以く敵さ
 から小捨難く思食甲冑からひ了錦乃直垂實盛京都

出陣の御平宗盛又義仲卿表指乃矢一筋
 承三年三月十一日願狀一通執筆ハ大夫當社へ奉納
 承三年三月十一日願狀一通執筆ハ大夫當社へ奉納
 報元多田満仲云より源家累代御傳來實盛へ承平
 治乃亂乃節義朝云より拜領乃より則右願狀より其
 趣あり初又康應二年三月廿一日遊行上人元祖より
 篠原乃演旅乃の節實盛亡靈出現上人乃回向より依
 る妄執をとりけり也其時上人實盛乃靈位へ真
 阿と中法名を授けり并ハ名号乃板札相記し回向乃
 後當社ハ右甲冑有之由來を以て上人右乃板札持參
 みる當社へ奉納今ハ於て傳來せしむ其舊例を以て
 是より遊行上人代々回國乃節當社へ社參みる衣甲

曹へ回向等ありと見也

遊行十四代大空上人奉納板札

堅四尺五寸
横六寸 厚四分半

為真盛真阿弥陀佛也

塔婆者之身圓滿之尊形萬法一外散生
成佛之直道也然遊行當時祖師今此塔

遊行十四世他阿弥上人
康應二年二月廿一日

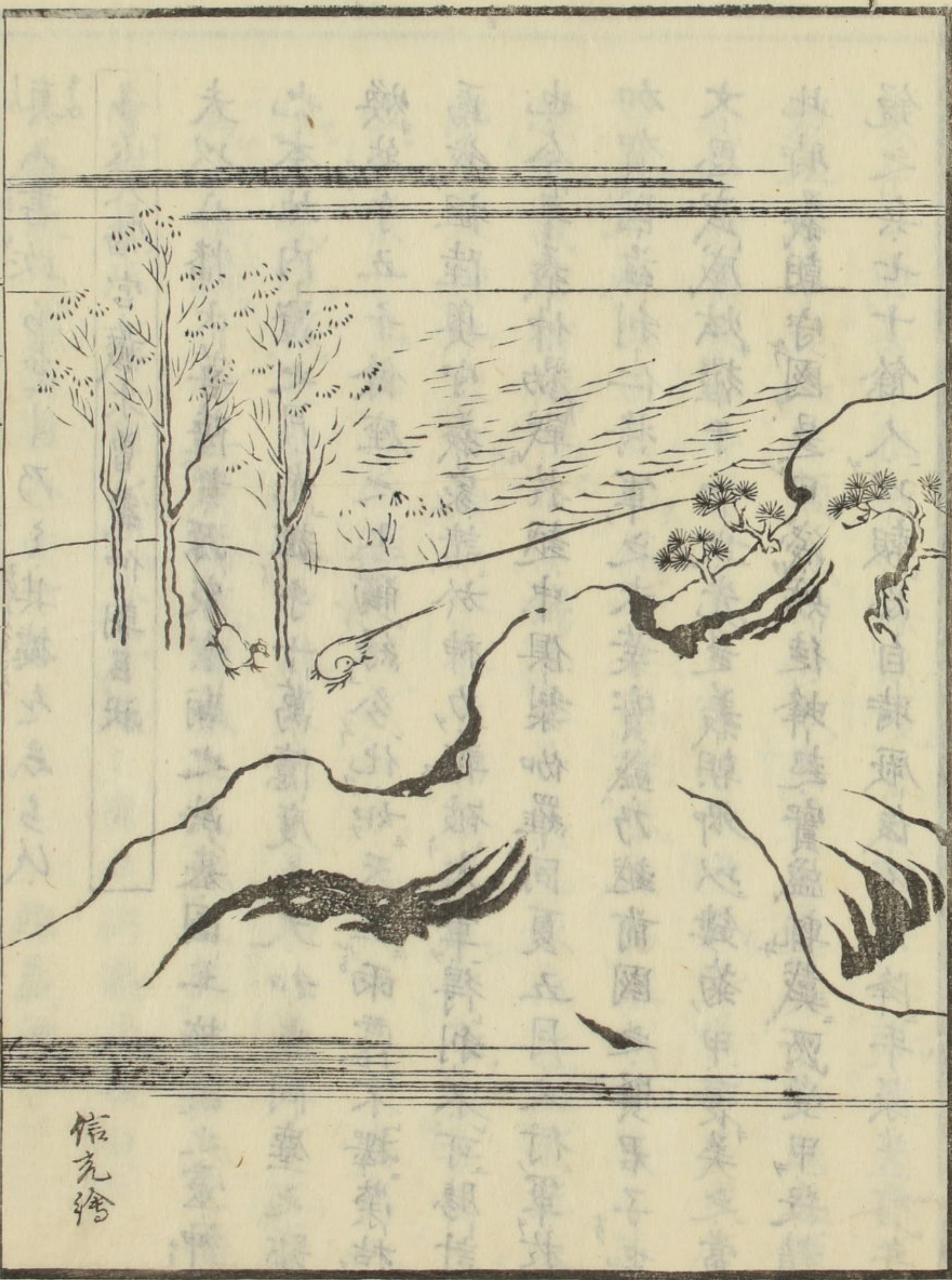
南無阿弥陀佛六字之中本在生死一生之間即生并證 敬白

行真阿弥陀佛吊遠忌行極樂道進果增進故
遇其來由弟勤彌羅歡喜真阿弥今證菩提者也

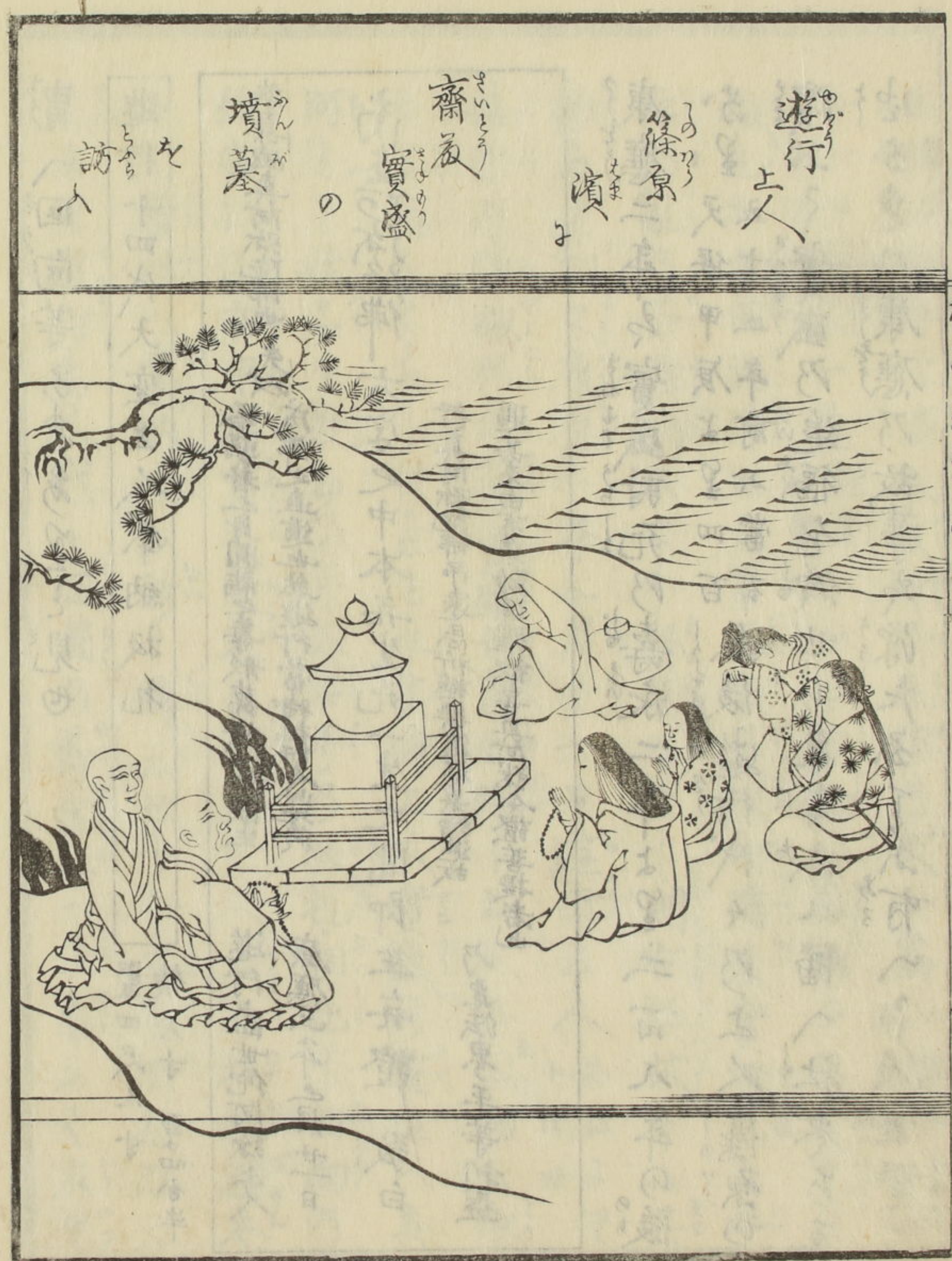
乃重法孝平等利益

康應二年乃實盛討死乃壽永二年より二百八年の後

かき 天保甲辰より四百 然後遊行代々乃上人篠原の
 實盛乃實盛乃追福を修せり也又太八幡へ社參ある
 由か也ハ康應乃故事ハ浮たふと有へり人但實を



信光繪



遊行人
篠原
濱
齋屋
實盛
墳墓
を訪人

真入書改らるゝ乃其據を去ら以
多太八幡宮藏木曾義仲朝臣狀

夫以八幡大菩薩者源家宗廟之洪基國土擁護之靈神
也本地内證之月光輝乎十萬億度之天和光同塵之跡
煥然乎五千餘座之上觸縁分化如天垂雨露不擇榮枯
焉我祖陸奥守義家請於神力輒破大軍得利不可勝計
也今年義仲勦戰於越中俱梨伽羅同夏五月又行軍於
加賀國茲利仁將軍之末葉實盛乃越前國之賢君子也
文思武威炫耀于一世先是義朝卿以鏤菊甲褒美之當
此時義朝守國是日淺賊徒蜂起實盛輒戴所受甲殺精
銳之兵七十餘人以報恩自時厥後不幸降平家蓋有年

矣今日與某甲拒戰於篠原濱宏展孫吳之謀伏尸數百
勲功譽名殆無比類然而勝敗異常享壽六十餘歲卒隕
其命時壽永二年癸卯夏五月二十一日也嗟乎苦哉某
甲與公執父子之約僅七日罔極悲其為誰哉乃為公菩
提及義仲祈禱所披甲錦直垂并某甲表指箭納于能美
郡多太神社恭惟頻年以來平相國混亂四海荼毒萬民
故王業一日不寧仰願加我於神力上為一人下為萬姓
亡平家族非是義仲為身謀榮祿生弓馬之家五常不素
為任惟稱丹祈冥慮而作源家之天依之就於多太八幡
宮蝶屋庄十三町永代令寄進之者也仍添狀敬白

壽永二載五月二十一日

源義仲

多太社之神領蝶屋庄十二町之廣永代可守之者也

樋口次郎兼光承之

宰官司殿

今考ふ此係狀之偽作せし物か里源平盛衰記に載た
不埒生乃新八幡宮願書は是係狀乃日付より僅に十
日前より大吏坊覺明の草せし處か里其文より曾祖父
前陸奥守義家朝臣身寄附於宗廟子息名號八幡太郎
以降云々と記す今此係狀に我祖と記し曾祖父と
云以陸奥守義家と記し前字と朝臣を去る録せ以
我祖とい高祖又より以往を称する字如里義仲朝臣
使し義家朝臣を我祖と称せらる以又前字と朝臣

と自由を取捨せしる非を東鑑の列傳を見くも
知へし又今年義仲勦戦於越中俱梨伽羅同夏五月又
行軍於加賀國と云ハ誤か否を俱梨伽羅合戦は五
月十一日か里加賀國發向る六月一日か里實盛享壽
六十餘歲卒隕其命時壽永二年五月廿一日と云ハ誤
か里實盛七十二歲天永二年辛卯乃誕生と源平盛衰
記齋藤系圖に記せし後入屋一討死乃日々六月一
日より八月廿一日止此等乃數條に依る係狀
乃偽を審定せし去とハ無解に迄き世乃物に非
ざるなり

○源平盛衰記に齋藤實盛内大臣宗盛が申けり故郷

戎家藏鎧直垂裁法

賦役令ふ云丁一人布二丈六尺を
 賦せへしと見えしに此直垂一具乃
 料みえられし定とあり是れ大里

袖一尺三寸
 唐書車服
 志ふ袖一尺
 三寸了過
 れとある
 令へし

一尺二寸	十	大	尺	二	寸
九寸	袖	端	大	神	端
五	尺	二	寸	十	寸

一尺	二	寸	尺 前組	
式今胸紐 菊綴 分るく				
一尺四寸	袴	後	四	尺
	袴	後	四	尺

胸紐 菊綴
 損失

一尺二寸	二	寸	十	寸
一尺二寸	袖	端	大	神
二	尺	五	寸	十

直垂上下うま白茶色 紋あ

五寸	大	尺	後	組	九
一尺九寸	袴	前	四	尺	
一尺九寸	袴	前	四	尺	

廣二尺四寸

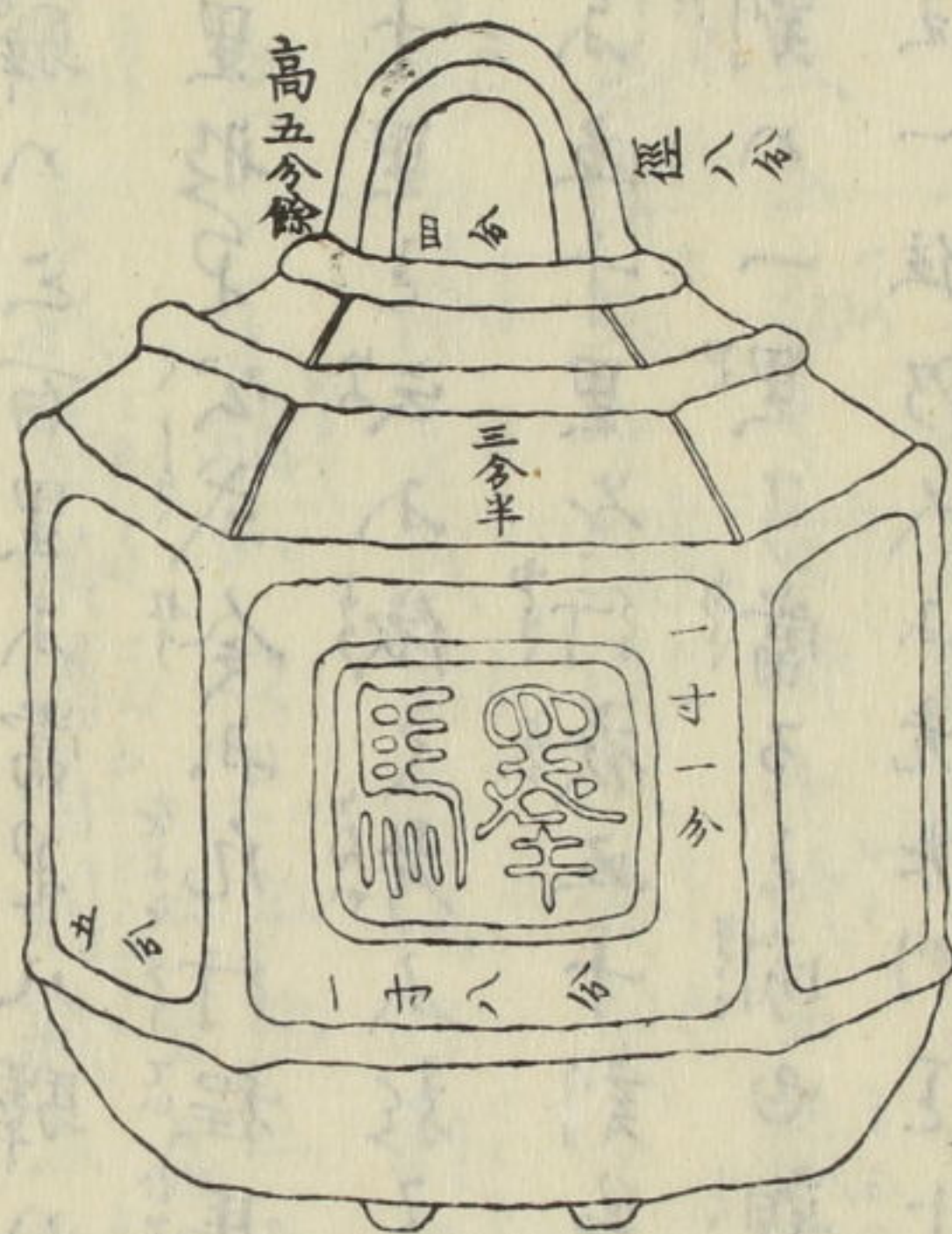
衣代鑑直垂と云ハ衣服令ハ衛士兵士乃服せる襦袢
袴と云物乃一轉せしからん但袴ハ細布ニ丈ハ尺ハ
二枚袴乃料ハ充る申延喜式了見也細布ハ廣一尺八
寸乃定かり

○驛路鈴乃日本書紀孝德天皇文化二年乃條ハ改新の
詔を載其二ハ初ハ京師を修め畿内國司郡司閑塞ハ
候防人驛馬傳馬を置及ハ鈴契を造里山河を定む
九驛馬傳馬を給ふ其皆鈴傳乃刻數ハ依とあはれ此
時ハ造らせし明ハ如也弘化二年より千公式令ハ
驛傳馬を給ふ其皆鈴傳乃刻數ハ依事連ハふハ一百
十驛以上事後ハ八驛還日事後ハ六驛以下と見也鹿

牧令ハ諸道ハ驛を置へハ三十里以下一驛を置と
あはれ十驛ハ三百里ハ當里八驛ハ二百四十里六驛
ハ百八十里如里公式令ハ九行程馬日七十里歩ハ十
里車ハ三十里と云ハ依ハ考ハ教ハ一晝夜百刻乃内
晝五十刻ハ五十里を行夜五十刻ハ休ハ教ハ教へハ
然らハ一刻ハ一里ハ當ると同也親王及一位ハ驛
鈴十刻親王一位乃人ハ先ハ十刻前ハ傳符三十
刻傳符ハ今乃先觸ハ里三十刻前ハ觸知ハ里一
刻一里と云ハ依ハ三十刻ハ里ハ里一驛ハ
前ハ三三位以上ハ驛鈴八刻傳符二十刻ハ位ハ
驛鈴六刻傳符十二刻五位ハ驛鈴五刻傳符十刻ハ
位以上ハ驛鈴三刻傳符四刻初位以下ハ驛鈴二

尅傳符三刻皆數乃外別小驛子一人を給きと云是
然らば驛鈴乃刻數を十刻八刻六刻五刻三刻二刻乃
六品と知へく余觀者三種

隱岐國造家藏驛鈴



高二寸八分

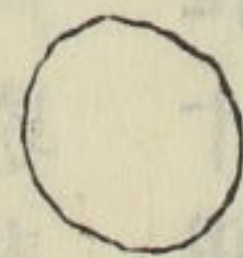
每後一分強

總徑二寸三分

裏面鈴字



内ノ鐵丸大如圖



好古小録云隱岐國若玉酢神社傳ル所八枝ノ驛鈴一口古制考ヘシ實ニ希世ノ珍也と見ゆ

日野大納言資枝卿

隱岐乃國ノ經る

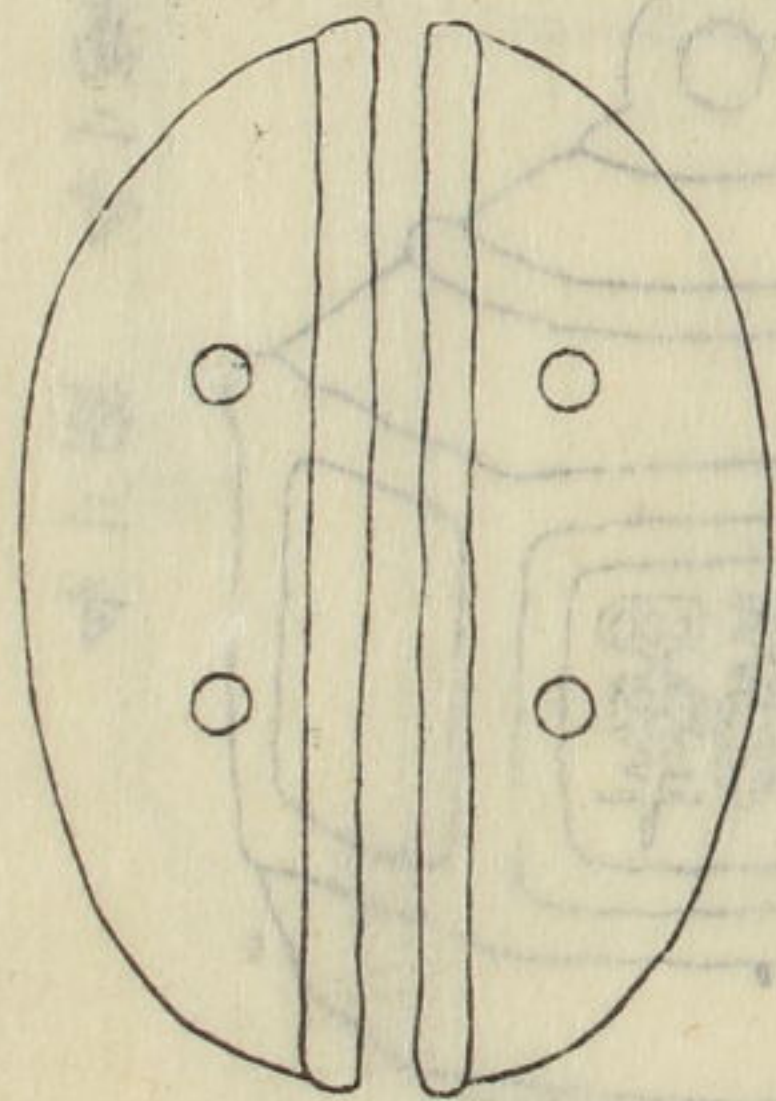
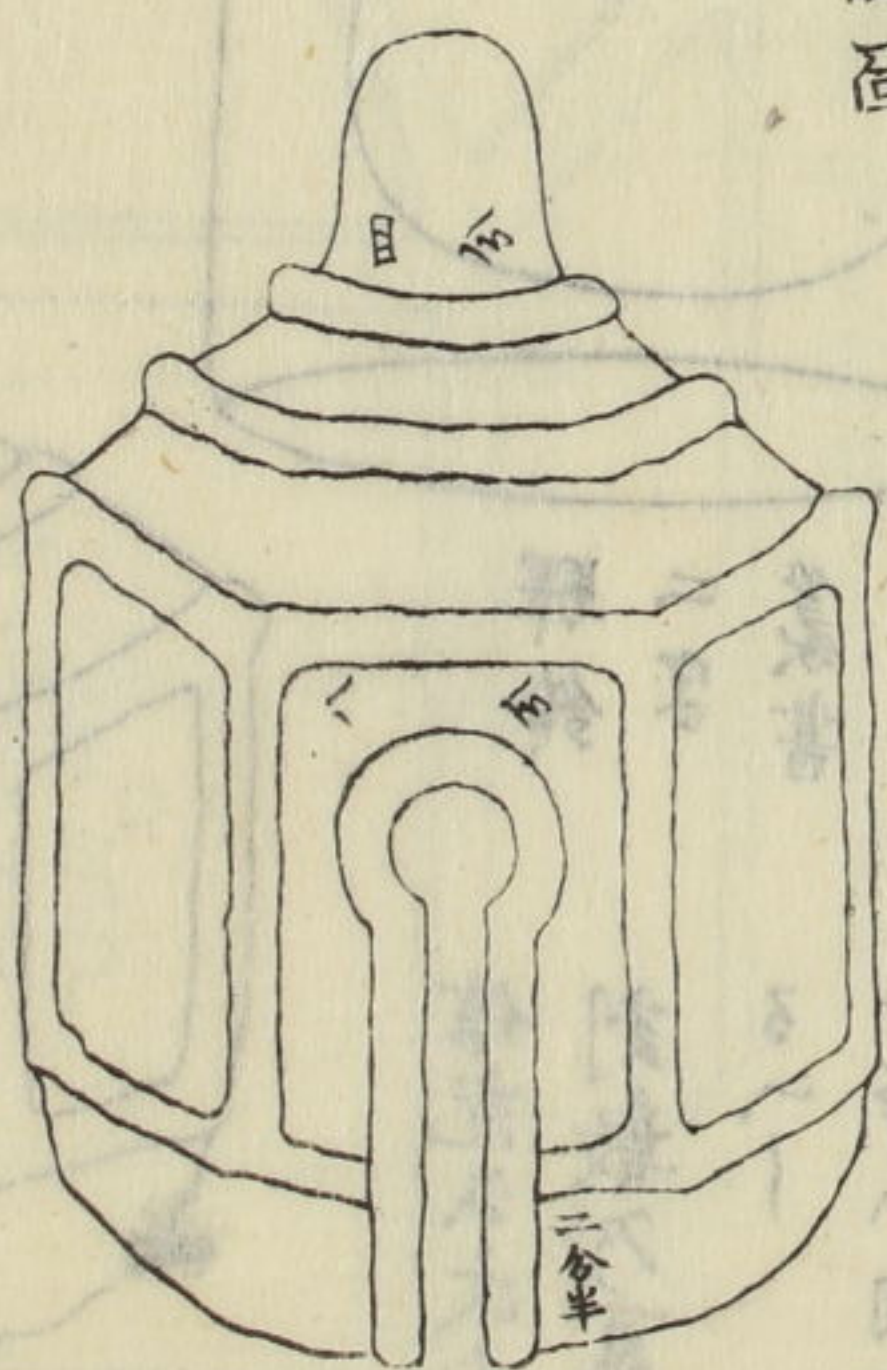
家小法云

驛鈴の鈴を

見ふふくせ

邑井敬義及ハ藤貞幹乃本
信列上田成澤寛經乃校本を

以て圖と



讃岐國多度郡陶村之好氏藏鐸鈴

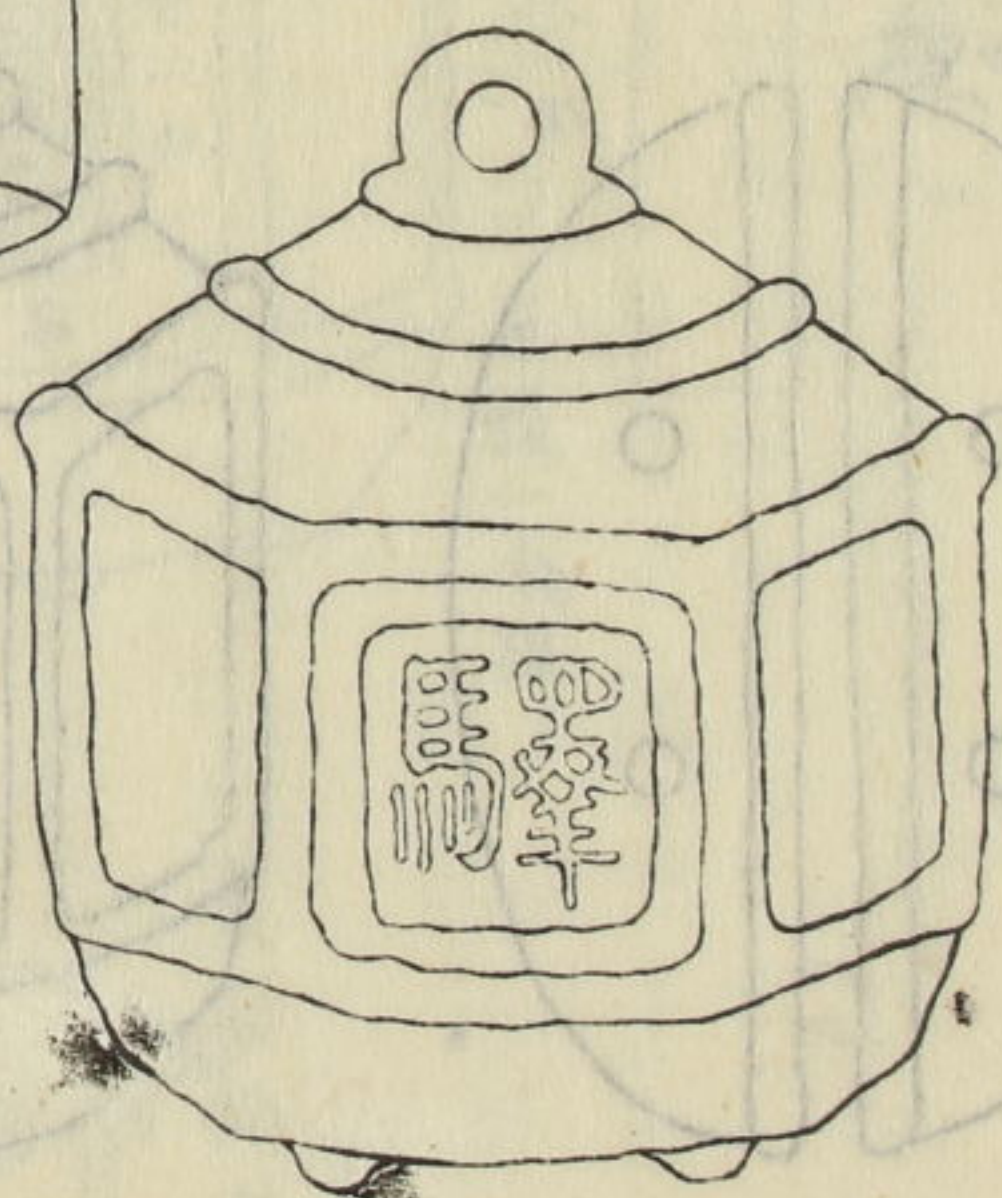
成澤寛經校本あり
三好官兵衛藏質銅
隠岐國造藏と同一く
あつた大小の違ひと
云ふ

裏面小鈴字あり

凡高二寸 徑二寸



驛鈴
二字
篆書

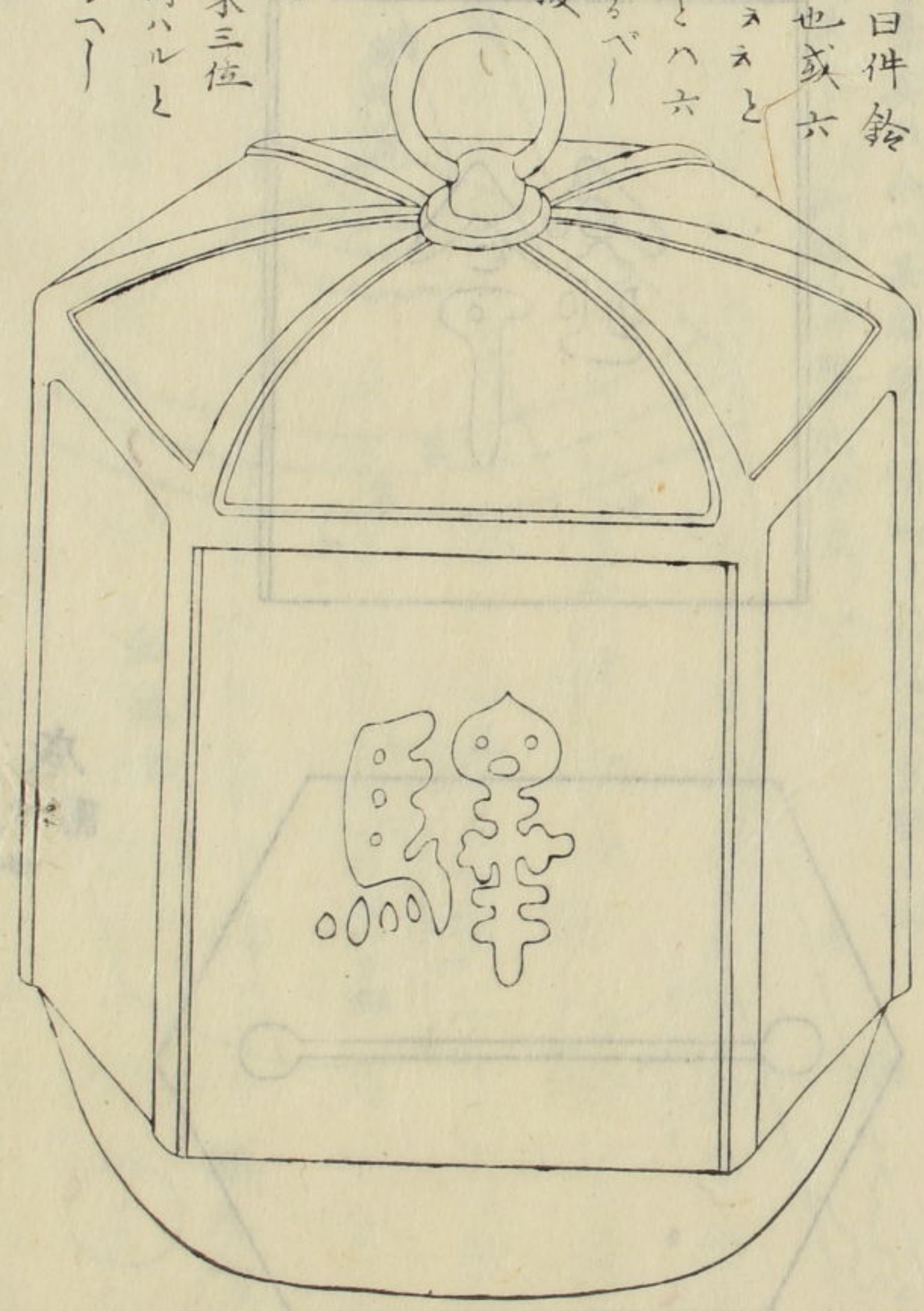


信元云大小同一くぬハ
刻數乃異あるハ故か
るハ
一本ハ自別種ふや
其實をくらひ

六棱驛鈴 禁秘抄所載物

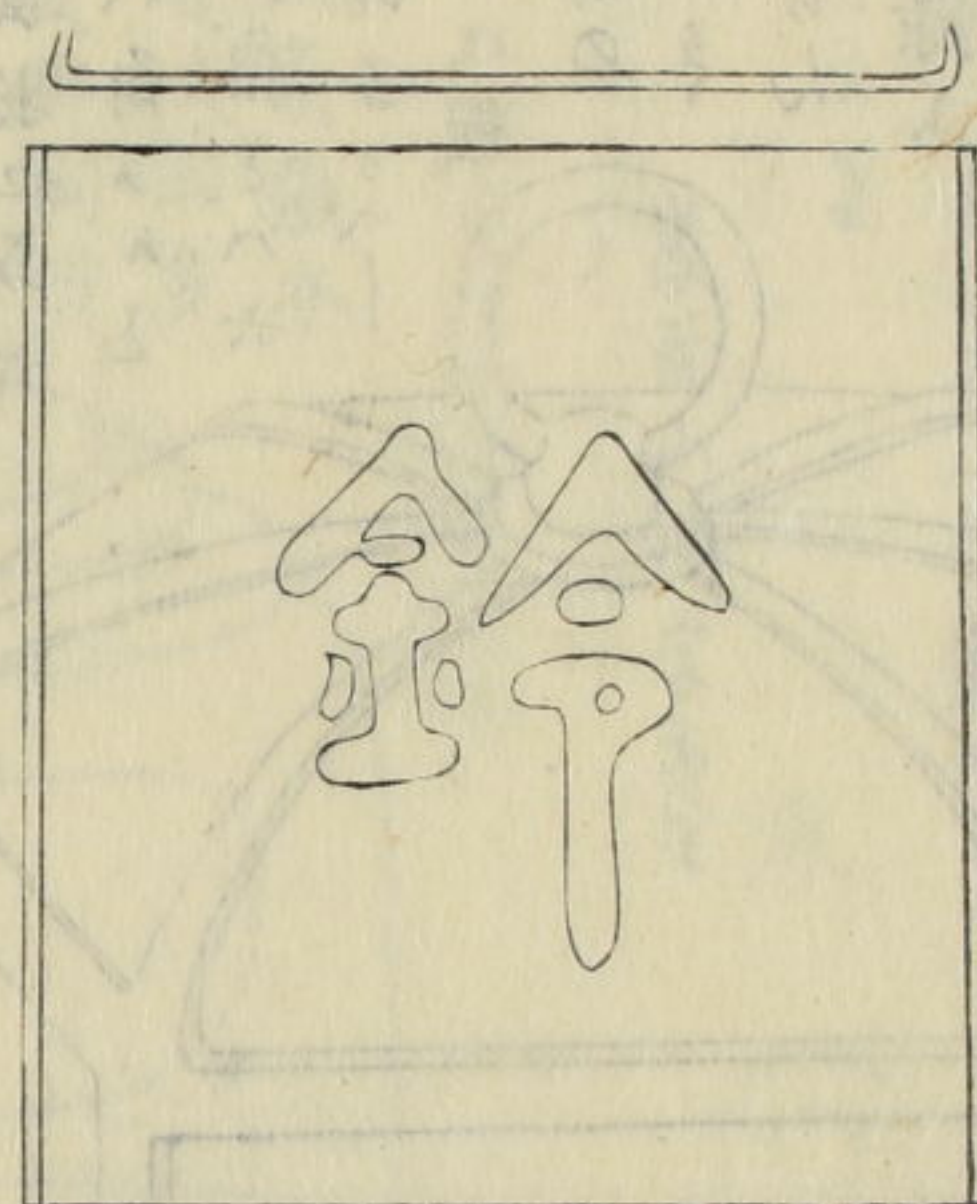
成澤寛經校本

禁秘抄小鈴印同
後實通俊曰件鈴
太有興物也或六
角或八角云々と
見也六角とハ六
棱乃謂ふるべ
八角ハ八棱
ふく前の
圖乃如き
からん
好古小録ハ
六棱鈴梨木三位
摹本世ニ傳ハルと
云者是かるハ

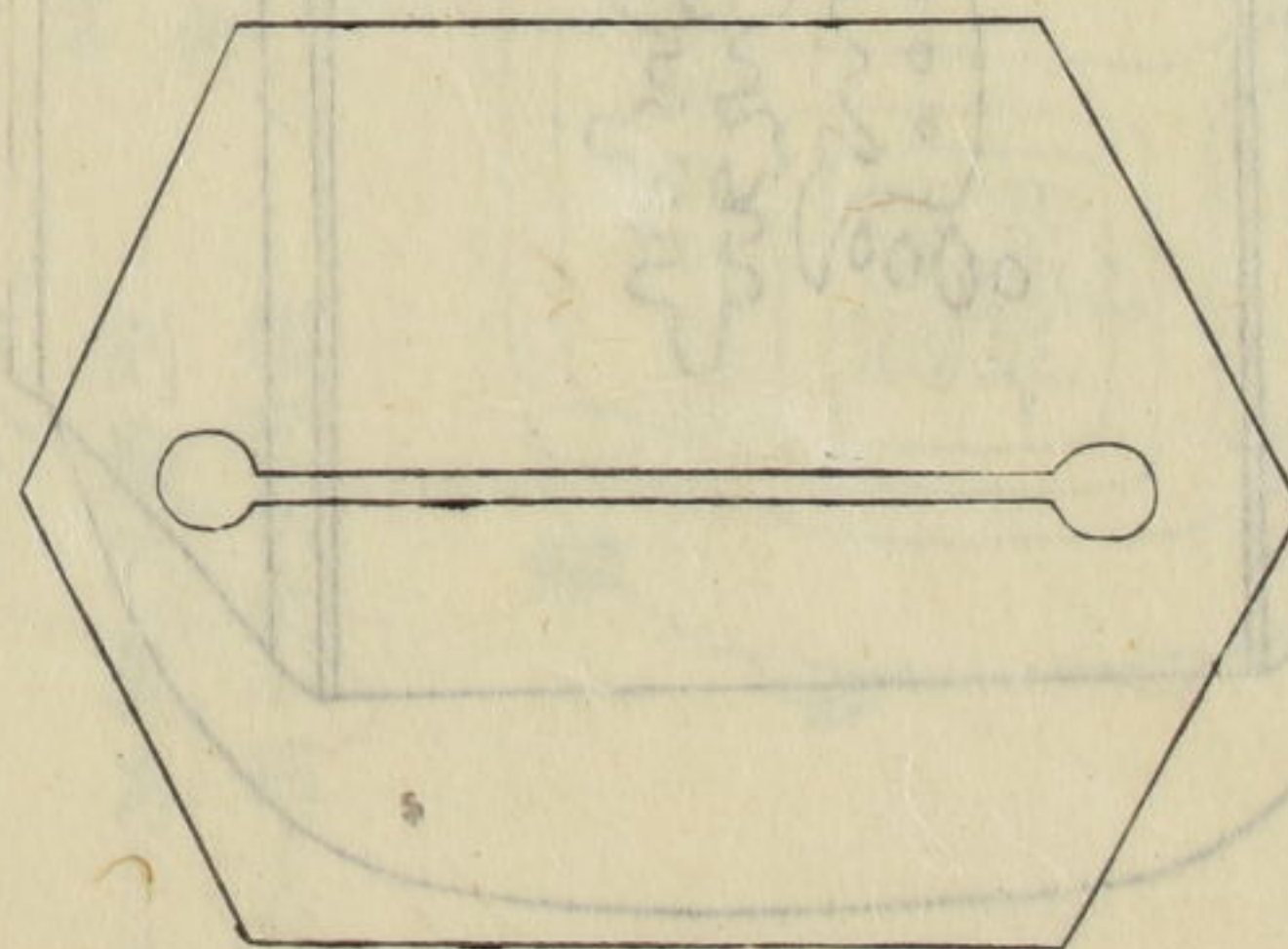


梨木奉大如圖

裏
圖大如



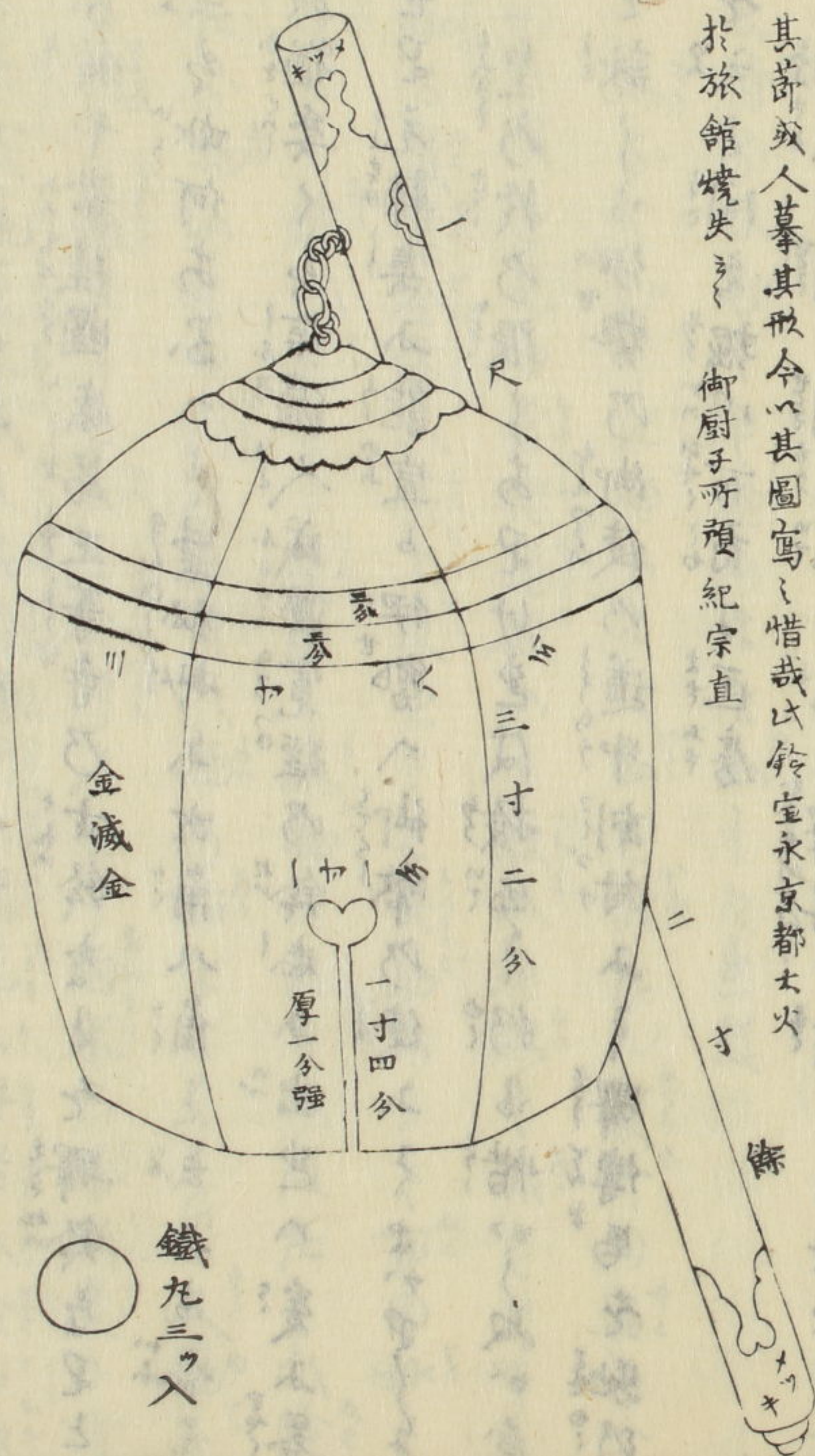
底
圖大如



高橋圖南摹本六稜鈴と通考をへ

六稜驛鈴 高橋圖南摹本

此圖之鈴一口雲列之人所持驛路之鈴也由申傳々先年携之上京
其前或人摹其形今以其圖寫之惜哉以鈴室永京都大火
於旅館燒失之 御厨子所預紀宗直



鐵丸三ッ入

以上三種皆驛路鈴と云殊る驛鈴乃銘ある更不疑
べくもあらば然る茂葛餅乃吾婦森乃神社乃神寶か
不鈴や常陸國鹿島正等寺乃古鈴なとを驛鈴なりと
云々如何あふへる禁秘抄云六角八角と云ふ合を
以猶委くも信濃人成澤寛經乃鈴志不出也ハ爰不畧
せ里元輔集不能宜る伊勢へ御幣乃使ふるまひり
皇乃鈴乃限るあしけは振出るる惜りぬか
と詠くも伊勢乃御使乃道中刻付ふる驛傳馬を馳
を云と聞え堀川百首に匡房
相坂乃関乃関も出る見え驛傳の鈴を去持取里と
云ふるも驛傳乃鈴関えり後御使の過るに知る是れ

今を以て推量くも去る有るなり
寛文五年作者不知東海道路乃記る袋井の宿に行水
去侍ふむる手廻ちよを出るる是れ
ふかくむるた廻ちよを出るる計たん袋井の宿にお
わはと見ゆ當時湯殿ふる絲瓜を以て垢をとりと
知る農業全書ふ其上皮をとり其筋あるる布の如き
をゆき洗ひ乾るる是れ器物をあらうはたとて塗
たふ物みりり引ぬり付く物乃垢をよくとり又湯を
子用く甚よくと云と合考ふゆへ南宋乃僧断崖の詩
み不成蔬菜不成瓜沿牆傍壁也開花只與諸人除垢穢
不知自己一團滓ふあふり西土子垢除不用る

と志か廻し又本草より釜罷を繰廻し故に村人洗鍋
羅氏と云とあり

○菊石竹雁鵠雉など字音あり世に通用を教類攷多く
あふへいふ正の釋獸に麋牡麋とあり音注に麋音
君とあり是れよれに皇朝のさりと云辭に君の字を
充しあふありさるる即音なりまゝ鳩をまゝと云
皇朝の辭にあふに正に鴈鳩の鵠雉註に今に布穀
なり江東よんて獲穀と云と云本草ありては江東
ふり郭公と云此より撥穀と云とあり撥穀のハ聲か
連なりと云と呼べし撥穀と云と云音のまゝと云
たゝと云と云一轉しと云と云よふりては強か

ときのと云と撥穀の音轉をなす馬を良人乃騎用
ふふより良と云と萬葉の古き抄に見えりては是
は集韻韻會に母下切然に麻乃上聲とありふり考ふ
連なりと云音のむを喉より呼ひ自強と上聲に聞
くむと云と云是等より推求むと云字音かから
皇朝の語となりけり

○尺素往来ふく西河所撰將乃た名禁燈片野をふり
出たふく以南迄相傳傳習の家々園中坊門抄に
楊梅侍従以下并御隨身の素下毛野等乃鷹掌と云
ふ公家の鷹面あり園との参議正三位基氏卿乃流を
云坊門との權大納言宗通卿乃流を云楊梅との太宰

大貳季行卿乃流お里但園基氏卿の鎮守府將軍取原
基頼乃曾孫たる基頼の大官右大臣後家乃二男たり
と云と由其母常陸介源為弘乃女を娶り故に外祖父
乃武勇を継ぐ弓馬に達し鷹犬を好み頗る妙を洩
たり佛堂を草創し持明院と稱せしは遂にその
流を持明院と云鷹犬の古實を記して十卷書と名付
基頼の子大孫卿通基乃子推中納言基家卿に及
三代弓馬乃藝を傳へ鷹犬の業に堪能ありしは
世に其家業たるを許せし由其家譜に見へたり
基家卿乃長子侍從三位基宗二男の即基氏お里爰に
園流を肇し持明院家のとふ及より今は當時持明院

家應仁乃亂を避る京師を去る邊に往せし故にお
里然る園中將との基有朝臣を云おらん坊門宗通
卿の基頼乃弟みく幼名は阿古丸と云童名上せし人
お里坊門少將と云伊氏朝臣お里一楊梅季行卿の
右大將道綱卿乃長子云三位兼經乃二男左中將敦家
朝臣乃二男刑部卿敦兼朝臣乃二男お里楊梅侍從と
い定行おらん御隨身乃秦下毛野西家お里御厨子所乃
鷹飼お里其藝ハ百濟の酒君より傳へしお里文安
四年の頃波多野豊後守尚政と云御所鷹飼お里に決
を記し一食内藏助親行し傳へ波多野ハ秦乃みく
丹波乃後氏と各別お里へし又蒙求臂鷹徒來乃作者

を松田宗岑と云左馬助元敏乃流名かま是々下毛野
武氏乃弟子と云又百濟の米光由光乃藝を傳へ
之出羽守源齊賴かま齊賴乃父ハ駿河守忠隆と云母
ハ權大納言齊信乃女かま忠隆ハ鎮守府將軍滿政乃
二男ふく清和天皇五代乃孫かま齊賴無雙乃鷹飼
み其藝武家ハ傳へ信濃國諏訪乃贅鷹下野國宇
都宮乃贅鷹等の後ハか齊賴乃流を相承と云中
み祿津神平乃流ハ諏訪の贅鷹の流と云又但祿津の
系圖ハ清和天皇第百皇子貞保親王一本貞元八代
平權大史重道乃二男祿津左衛門尉道直乃子を神平
貞直と云貞直乃子神平宗直乃ちみ美濃守と云宗直

乃子神平宗道乃子神平敦宗乃子神平宗光
大宮新藏人と云此時御所御鷹飼方乃秘訣を傳ふと
云ハ酒君乃流と米光由光乃流と祿津乃家ハ一統
テ相承かま形見ハかま宗光十又代美濃守信直ハ
道ハ松鷗軒常安云宮内大輔元直乃男かま松鷗
軒乃弟子屋代越中守吉田多右衛門家元熱田鷹飼
伊賀清六小笠原某羽根回某横澤某荒井豊前守平野
道伯等乃數人あま皆新得發明と云又あま各一家
をか是鷹飼流派乃大概かま
屋代越中守ハ信濃國更級郡屋代乃領主ハ鷹飼乃
秘訣を記せし書あま越中守あまを諏訪因幡守賴水

小傳入越中守乃子を左衛門尉勝永と云勝永乃子を
越中も吉正と云

吉田多布衛門家元乃子を喜助家政と云初々織田右
府小仕へ後ろ江戸に召進御手鷹匠とあり録現米田
十石を給人其子を清右衛門政勝と云

○當道大記録了當道の官途に階十六官七十三乃小刻
と云とありに階とに檢校別當句當座頭なり十六官
との座頭ふ一度二度三度四度五當ふ過錢送物掛司
云寄召物始乃大に後乃大に推別當句當總別當推
檢校に檢校總檢校を云七十三乃小刻との

一 半打掛 裝束綿布色淡黄或蒲黄 官金に西
城某又ハ其一と糸衆

一 丸打掛 同之西二分

一 過錢打掛 袴乃紐白 練を用入 同 二分

一 袷色衆分 白平絹無紋乃長絹を著 同 西

一 壹度乃上礼引 裁と云 同 西

一同 中老引 同 西

一同 晴 同 廿西

一 二度乃上礼引 同 六西

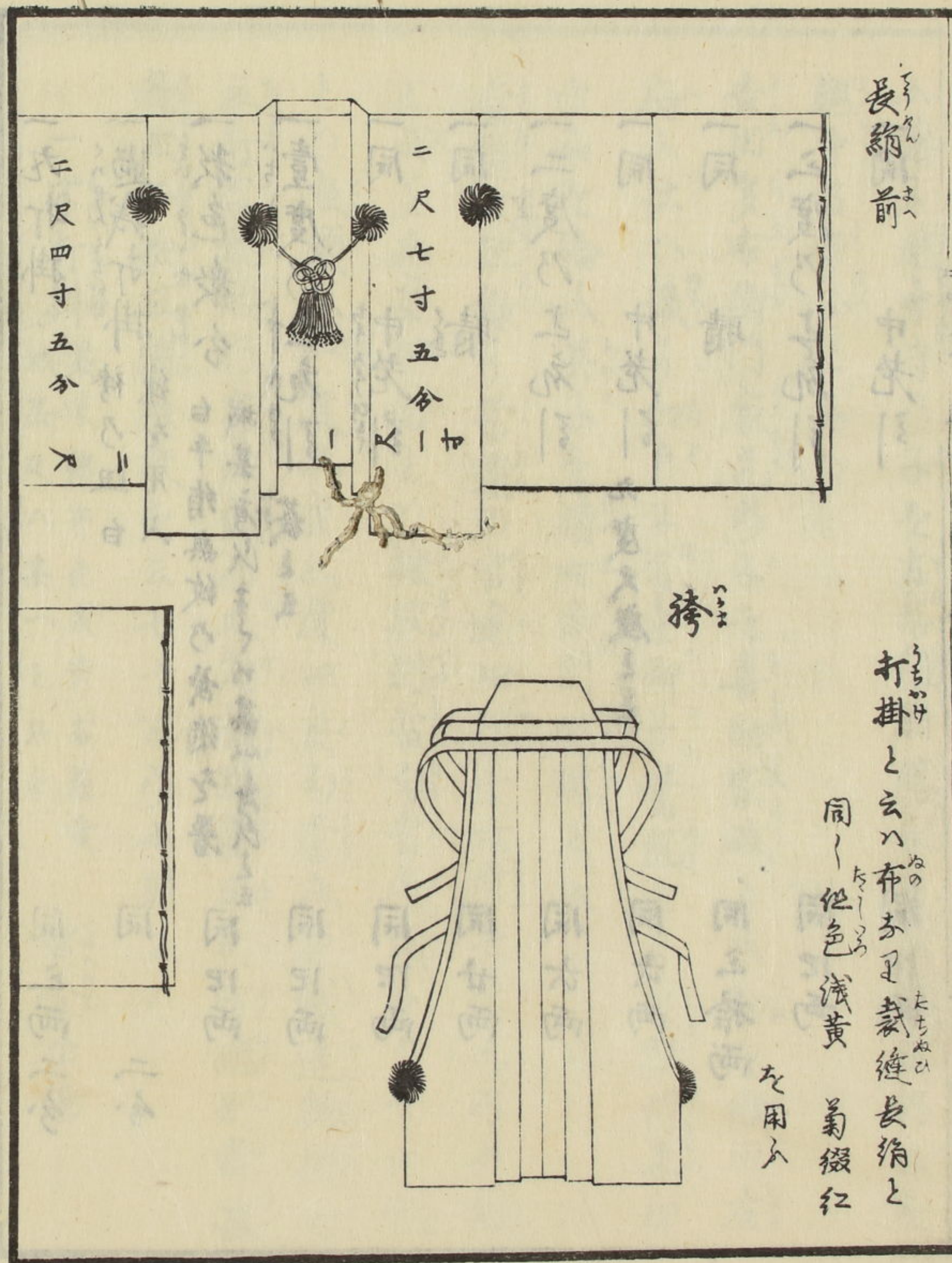
一同 中老引 九度又度と云 同 六西

一同 晴 同 三拾西

一 三度乃上礼引 同 西

一同 中老引 同 西

長縮前



打掛と云ハ布衣裁縫長縮と
同く他色浅黄 菊綴紅
を用ふ

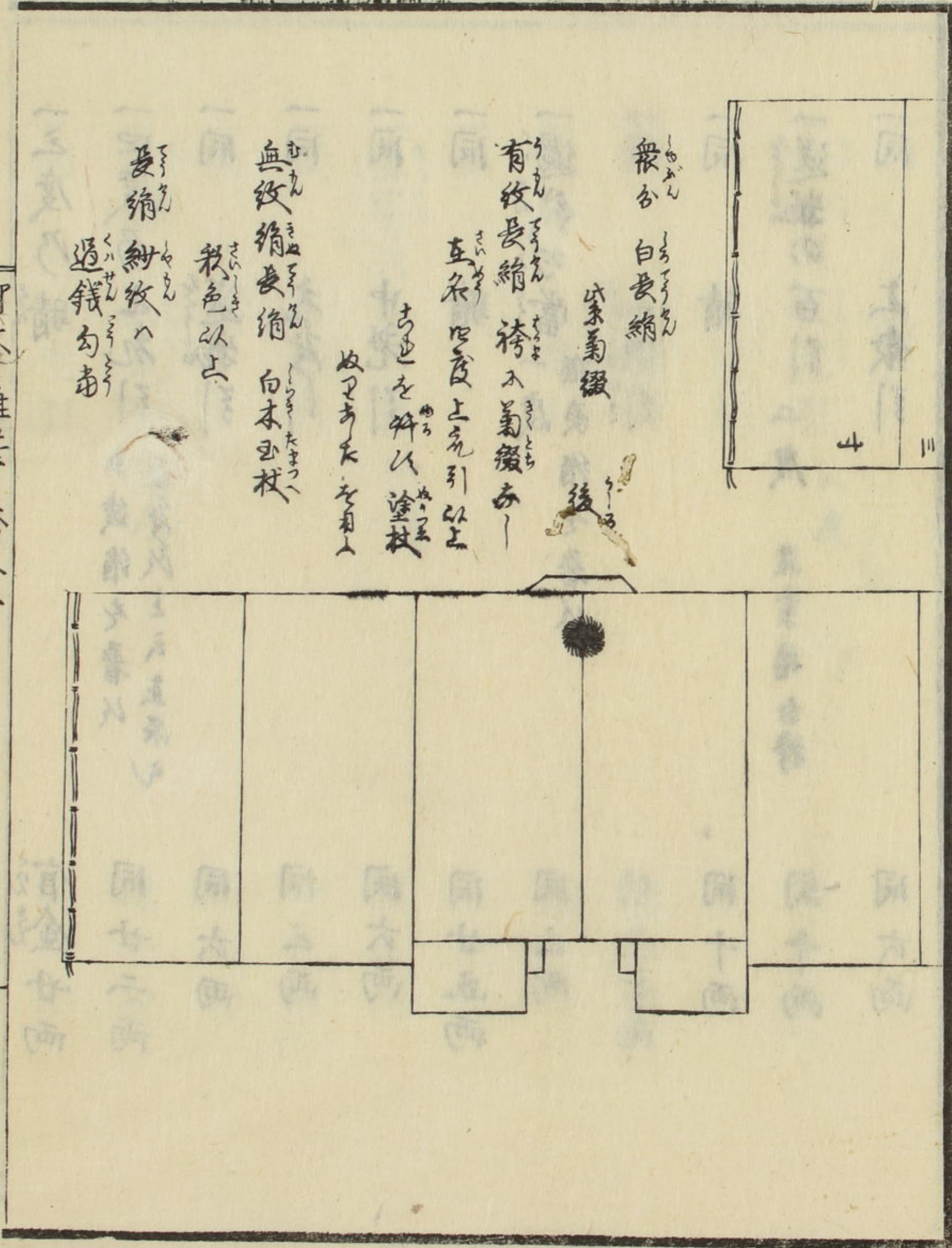
無分 白長縮

有紋長縮 袴入菊綴

左名 四度上元引以上
お通を斜に縫枝
ぬきあてを有ふ

無紋縮長縮 白木玉杖
彩色以上

長縮 紉紋ハ
過錢勾布



打掛と云ハ布衣裁縫長縮と
同く他色浅黄 菊綴紅
を用ふ

一三度乃晴

官金廿兩

一四度乃上引

白綾絹を著以
某度以と云云

同廿二兩

一同 送物引

同六兩

一同 大度引

同二兩

一同 中老引

同六兩

一同 晴

同廿五兩

一過錢勾當一度

猶長絹を著以

同二兩

一同 上衆引

同十七兩

一同 晴

同十兩

一送物の百引

二度

黒素絹白袴

同十兩

一同 上衆引

同六兩

一同 晴

同四兩

一掛司乃三老引

二度

同一分

一同 五老引

同一分

一同 十老引

同二分

一同 上衆引

同六兩

一同 晴

同五兩

一立寄乃五十引

二度

同五兩

一同 上衆引

同八兩

一同 晴

同八兩

一召物乃三老引

五度

同一分

一同 五老引

同一分

一 名物乃十老引	官令二分
一同 上老引	同四兩
一同 中老引	同五兩
一同 晴	同廿五兩
一 初大座の老引 六度	同二分
一同 五老引	同二分
一同 十老引	同二兩
一同 上無引	同八兩
一同 中老引	同十兩
一同 晴	同十兩
一 後大座の老引 七度	同二分

一同 五老引	同二分
一同 十老引	同一兩
一同 上老引	同八兩
一同 中老引	同十兩
一同 晴	同十兩
一 投句當上老引 八度	同十兩
一同 中老引	同十兩
一同 晴	同三十兩
一 投別當上老引	同十兩
一同 中老引	同十兩
一同 晴	同三十兩

御書雜筆 卷八

一正別當上乳引

官金十兩

一同 中老引

同十兩

一同 晴

同三十兩

一總別當 燕尾紫衣を著猶禁色

同廿兩

一同 上乳引

同十兩

一同 中老引

同十兩

一同 晴

同三十兩

一檢校 紫素絹 白髪袴 浅黄小柄奴袴

同四十兩

一同 上無引

同十兩

一同 中老引

同十兩

一同 晴

同三十兩

半打掛前より是に至る金七百十九兩なり

以上六十七刻なり此後正檢校五刻六老五老

老三老二老なり一老を職總檢校と云都合七十

二刻終る

衆分と云は教色より三度乃晴まゝを云

在名と云は旧度上乳引より同晴まゝを云

勾當と云は過錢より八度乃晴まゝを云

檢校と云は特別當より二老まゝを云

○東西市野舎乃圖一鋪何年か寫せし者と云ふを知ら
と云共其裏了大宮院御葬乃事を記したる大宮院と
稱ハ後嵯峨院乃后より正應五年九月九日崩御なり

卷之二



卯齋雜筆卷之二



山城屋は折薦 葉薦 狹席 廣席 食薦等山城
國乃産物を置大和屋は箕 甑 鍋 間杯 片杯
寛等大和國の産物を置と知へし然ハ山陽道乃屋ハ
播磨屋大管杯 小管杯 箸乳岳美作屋鐵 鉄 白
縮かゝと推し知へし 外ハ陰東海東ハ西海北陸 出也
今ハ市ハ交易大和物を屋と云ふの本義と聞也 國持
奥向かといふと云ふ屋ハ又ハ市乃屋と云ふ
屋ハあへしと云ふと云ふ屋ハ又ハ市乃屋と云ふ
詞を移し市ハ収町ハ収る商人乃家を何ハ
屋彼乃屋と云ふと云ふ一収ハ収る但ハ市郵舎をハ
延暦十二年ハ造也市人を遷せ也と日本紀果了
見るく也ハ弘化二年ハ壬午ハ十二年ハへ了と云屋

と云ふハ出来しと云ふ字書ハ屋ハ至止止教外と見也
天下乃産物乃至止止教義ハ取かゝる古今集物名
ハ貫之乃
うと云ふ乃我黒ハ替 紙屋川 紙屋川
と詠ふハ北野の紙屋川ハ黒紙をさく紙屋ハ在
よ里懸る川乃名ハ員ハ一ハ然也ハ屋乃名ハ依る
沽物を知へし為かゝる今ハ商人ハ本貫を以て屋
ハ名付ハ伊勢ハ出ハ人ハ尾張屋と云ハ尾張ハ故ハ
伊勢屋ハ日向乃産物を沽尾張屋ハ美濃の所産を賣
り如く區々心々也ハ屋乃名ハ商人物ハ知難し
是ハ一變し商人ハ名字を称さる

○延喜乃帝を聖帝おまゝと傳ふと聞ふ所扶桑略記
 小延喜元年正月廿八日右大臣菅原朝臣太宰權帥子
 任ま云々件事依る宇多法皇内裡に馳参る然と云
 左右諸陣警固く通せし仍て法皇草座を陣頭侍從
 所の西門に敷北に向終日庭に御坐左大辨紀朝臣長
 谷雄門前の陣に侍以火長以上榻を下ら以晚景法皇
 本院に還御せと見ゆ法皇に延喜帝の御父なり御所
 々仁和寺ありと別くと馳御参ありと云諸陣の衛府
 警固く入奉らひと云理あるへから以是をまざる
 御参ありと其時入参るをかかると宣旨乃有るか
 不登し帝の歡應ふ右大臣左遷乃事ハ宇多法皇御諫

あふ参る王を兼くあらしめせとてか故あり但法皇
 中遠く態と御参あり形から推さ中入せ玉とて終日
 長谷雄朝臣と對話おさせらるる晚景に還所あり
 法皇乃星好し御諫ありと云別せ玉入傳ふ由を
 御思慮の故と云ふ斯くも御父子乃間睦から
 不とを窺知べし五倫乃首たふ父子乃親を關せら
 無實乃諺を信じ有徳乃相を流さふ君臣乃義を廢し
 為子内親王ハ宇多法皇同母乃妹なり源和子の宇多
 乃妹と云ふ延喜乃叔母なり然る為子の昌泰乃初
 妃とおと和子乃常明親王乃母なり姑ハ二等親王律
 不於婚姻を為を得ん違へハ各杖一百の刑を

京極御息所^{きんぎょみよしよ}所^{しよ}後^ご原^{はら}廣^{ひろ}子^この本院^{ほんのう}左^さ府^ふ時^{とき}平^{へい}乃^の女^{むすめ}なり。延喜^{えんぎ}廿^に年^{ねん}庚^{こう}辰^{しん}雅^{みや}明^{めい}親^{しん}王^{わう}を^を生^う延喜^{えんぎ}第^{だい}十^{じゅう}子^しと^と以^も成^{なり}ハ^ハ宇^う多^た法^{ぽう}皇^{こう}の^の子^こと^と云^い着^{ちやく}然^{ぜん}ら^ら入^い道^{どう}受^う戒^{かい}の^の後^{のち}たり。但^{たゞ}武^ぶ御^ご息^{しよ}所^{しよ}乃^の法^{ぽう}皇^{こう}子^し系^{けい}玉^{ぎよく}ひ^ひと^と云^い中^{うち}治^ち大^{だい}納^{なつ}言^{ごん}物^{ぶつ}依^い康^{かう}賴^{らい}寶^{ほう}物^{ぶつ}集^{しふ}な^なと^と見^みえ^えと^と也^やは^は虚^{きよ}説^{せつ}の^のあ^ある^る。然^{さう}ハ^ハ父^ふ子^し聚^く慶^{けい}以^もお^おり^り支^し婦^ふ乃^の別^{べつ}な^なと^と云^いへ^へ。源^{げん}氏^し物^{ぶつ}語^ごハ^ハ諷^{ふう}諭^ゆの^の書^{しよ}朝^{ちやう}廷^{てい}乃^の政^{せい}治^ちを^を擬^ぎせ^せし^し如^{ごと}く^く藤^ふ壺^う乃^の后^{こう}の^の王^{わう}ハ^ハ長^{ちやう}子^し克^く全^{ぜん}く^く京^{きやう}極^{ごく}御^ご息^{しよ}所^{しよ}乃^の事^じを^を摹^もせ^せし^しみ^みと^と知^ちへ^へ。明^{めい}親^{しん}王^{わう}を^を生^う次^じ子^し保^ほ明^{めい}親^{しん}王^{わう}を^を立^たて^て太^{たい}子^しと^とお^おし^し太^{たい}子^し薨^{こう}と^と後^{のち}三^{さん}口^{こう}又^{また}六^{ろく}七^{しち}八^{はち}九^{きゅう}十^{じゅう}子^しを^を踰^ある^る十^{じゅう}一^{いち}子^し寛^{かん}明^{めい}親^{しん}王^{わう}と^と以^も長^{ちやう}幼^{よう}乃^の序^よけ^けし^しと^と云^いべ^べ。彼^{かれ}是^{これ}を^を思^{おも}ハ^ハ延喜^{えんぎ}ハ^ハ失^{しつ}德^{とく}お^おし^しと^と云^いさ^さぬ^ぬと^と云^いわ^わく^くと^と云^いふ^ふや^や。

商人^{あきひと}ハ^ハ刀^{たう}を^を帶^{たい}さ^さる^る乃^の之^{これ}太^{たい}刀^{たう}を^を佩^{はい}る^る王^{わう}形^{かたち}ハ^ハ職^{しやく}人^{じん}畫^えの^の畫^え不^ふ知^ちへ^へ。應^{おう}仁^{にん}兵^{へい}亂^{らん}乃^の後^{のち}商^{あき}人^{びと}之^{これ}を^を帶^{たい}上^{じやう}と^と云^い兵^{へい}士^し乃^の如^{ごと}く^く太^{たい}刀^{たう}を^を佩^{はい}る^る弓^{きう}箭^{せん}を^を握^{くわ}軍^{ぐん}役^{やく}ハ^ハ後^{のち}人^{じん}王^{わう}塙^{はう}乃^の茶^{ちや}屋^や京^{きやう}の^の茶^{ちや}屋^や乃^の如^{ごと}く^く天^{てん}和^わ三^{さん}年^{ねん}二^に月^{げつ}廿^に六^{ろく}日^{にち}令^{れい}せ^せら^らと^と云^い都^とく^く町^{ちやう}人^{じん}乃^の二^に刀^{たう}を^を帶^{たい}さ^さる^ると^とを^を止^とめ^めら^らと^と云^いけ^けし^し但^{たゞ}我^{われ}國^{こく}乃^の制^{せい}孝^{かう}德^{とく}天^{てん}皇^{こう}乃^の大^{だい}化^け元^{げん}年^{ねん}ハ^ハ兵^{へい}庫^こを^を作^{つく}國^{こく}郡^{ぐん}乃^の刀^{たう}甲^{かう}弓^{きう}矢^やを^を收^{しゆ}聚^くら^らと^と云^い後^{のち}乃^の身^みハ^ハ兵^{へい}器^きを^を帶^{たい}さ^さへ^へと^と云^いあ^あら^らハ^ハ京^{きやう}師^し兵^{へい}衛^ゑ乃^の士^し邊^{へん}要^{やう}軍^{ぐん}團^{だん}と^と云^いそれ^{それ}よ^よ里^り十^{じゅう}九^{きゅう}年^{ねん}過^かる^る持^ち統^{とう}天^{てん}皇^{こう}乃^の七^{しち}年^{ねん}ハ^ハ至^{いた}る^る親^{しん}王^{わう}よ^よ里^り以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さる^る然^{しか}と^と云^い其^{その}前^{まへ}ハ^ハ親^{しん}王^{わう}以^も下^げ進^{しん}位^い以^も上^{じやう}進^{しん}位^い乃^の許^{もと}さ^さ

備人か王を許さずと知へし。剃髮人か放るを
やまより九年過く大寶令を頒たし。時了兵士の太
刀と刀子と自備人か王を制らば是武士の大小二刀
それより二百餘年の後不聖に延喜彈正式乃制ふハ
刀子乃刃長五寸以上乃者大庭をく常か王を許され
まにあふハ兵士乃外ハ刀一口たし帶す。とてか
然ふハ何と知く其法令也。る。一刀をハ誰をハ帶ふ
と。と。延喜式乃制を犯せしを意ふ。か。け。か。ハ。如
何ふ。や。貴人乃御前へ出ふ。刀を解て出ふ。及。元。よ
買。永。様。は。常。家。も。乃。から。公。様。へ。帶。を。へ。さ。ふ。あ。る。故
み。せ。し。王。の。遺。れ。ふ。と。知。へ。し。兵。士。ハ。勅。許。ふ。太。刀。と

刀を佩ふ。乃。か。也。は。天子將軍乃御前ふ。く。ハ。解。王。を
せ。以。其。兵。士。ハ。國。郡。の。正。丁。よ。り。擇。ひ。取。を。以。て。遂。に。一
村。一。郷。乃。内。ふ。く。有。力。乃。民。ハ。兵。器。を。貯。へ。軍。事。ハ。後。人
く。功。勲。を。立。す。く。位。ふ。叙。し。官。ハ。任。を。致。路。ハ。あ。る。商。人
ハ。軍。務。か。り。也。は。仕。進。乃。路。か。し。是。刀。を。佩。る。用。か。く。備
也。

[illegible]

